標点

教師の涙

津山教育事務所　所長
岩﨑政則

「皆さんは最近泣いたことがありますか」。親族や親しい人に辛い出来事が起きた時には、悲しみの涙が流れるだろう。映画やドラマ、小説などの登場人物に感情移入し、涙を流すこともあるだろう。しかし、嬉し涙を流すことは人生の中でそれほど多くはないだろう。

私事になるが、娘が生まれた時以外に、毎年1回はこの嬉し涙を流せる機会に恵まれていた。教師という職は、仕事を通してこの嬉し涙を流せる職業の一つだからである。

小学校の教師として20年間担任を務め、クラスを受け持った。そのどのクラスにも思い出があり、1年間の最後の日には受け持った子どもたちの成長に立ち会えた喜びと責任を果たせた安堵感等で、心は万感の思いで満たされた。そして、自然と涙が溢れていた。何より感動するのは、やはり6年生を担任したときの卒業式の日だ。私の場合、決まってこの日は呼びかけの時、教室での最後の訓話の時に嗚咽するほど泣いてしまっていた。話そうと考えていたことが上手に伝えられなかったり、子どもより目立ってしまったりと決してよいことばかりではないが、とにかく感動して涙が止まらなくなる。腹が立ったことも、苦労したこともこの日の子どもや保護者の顔で全て吹き飛んでしまう。こんな職業が他にあるだろうか。職業人として自分のできる精一杯の力を子どもたちに注ぎ、がんばれば大きな達成感と感動を味わえる。教師になってよかったと思う至福の時だ。私だけでなく、ほとんどの教師の皆さんはこの素晴らしい時間を過ごされてきたと思う。

今、この教師という職を志望する学生が全国的に大きく減少している。岡山県も例外ではない。この原因は教師の魅力がなくなってしまったからだろうか。いや、そんなはずはない。教育課題の多様化や教師の多忙化という現状の影に、教師の魅力が隠れてしまっているだけである。私たちは教師の魅力を曇らせるこの課題を、働き方改革により何としても取り除かなければならない。それと同時に、教師が多くの場面で教え子の成長に感動している姿、喜びを感じている姿を子どもたちや保護者の方々に見てもらうことが、教師という職の魅力を再び輝かせることに繋がると思う。

来年の3月も各学校で多くの先生方が感動の涙を流すであろう。その姿を通して、教師の魅力が多くの人々に伝わることを願っている。